



ふじみだい

「令和元年度 2月号」 令和2年 1月31日発行

範となる行動

副校長 足立 渉

「初春の**令**月(れいげつ)にして、気淑(きよ)く風**和**(やわら)ぎ、梅は鏡前(きょうぜん)の粉(こ)を披(ひ)き、蘭は珮後(はいご)の香(こう)を薫(かお)らす。」元号「令和」の出典となった日本最古の歌集「万葉集」「梅花の歌、三十二首の序文」です。この序文の短歌が詠まれたと言われる大宰府の坂本八幡宮では、梅の花が少しですが開花したようです。寒さ厳しき折ですが、春また遠からじといったところでしょうか。

さて、今年 2020 年は東京オリンピック、パラリンピックが開かれます。1964 年の東京大会から 56 年の月日を経て、また開かれることをとてもうれしく思います。どんな感動を選手、スタッフ、応援する私たちが世界に伝えていくのか、今から楽しみです。

東京1964大会で新たにオリンピック種目となった競技は2つあります。知っていますか？一つはバレーボール(男女)、もう一つは、柔道(男子)です。「東洋の魔女」と呼ばれ、金メダルを取ったバレーボール日本女子チームのことはご存知の方も多いと思いますが、先日柔道の無差別級決勝戦の話を教えてもらい、とても感動したのでここで紹介します。この大会で柔道の階級は4つしかありません。軽量級、中量級、重量級、無差別級です。すでに無差別級を除く3階級で日本は金メダルを取っています。まさに「お家芸」です。そして、無差別級決勝はオランダのヘーシング選手と日本の神永選手。結果は、体格ではるかに上回るヘーシング選手(身長196cm 体重120kg)が神永選手(身長179cm 体重102kg)を袈裟固めで抑え込み、一本で勝ちました。勝利が決まった瞬間、オランダチームの関係者は歓喜のあまり、試合場のヘーシング選手に駆け寄ろうとしたそうです。それをヘーシング選手は手で制し、追い払い、試合場までは上がらせませんでした。そして、深々と一礼し試合場を後にしました。柔道が世界の「JUDO」になった瞬間でした。また、負けた神永選手もひざの靭帯を負傷していたことなどを言い訳にせず、深く負けを認めていました。礼を知る2人の名勝負だったそうです。今後の柔道界の範となる2人の姿、そして試合でした。



先日、郵便局前の横断歩道を信号無視してわたっている児童がいたので指導しました。その児童は反省しながらも「でも、大人もよくやっているよ。」とつぶやいていました。子どもは、私たち大人をよく見えています。改めて身近にいる私たち教職員、保護者、そして地域の皆様で、子どもの範となる行動とはどういったものか考える必要を感じました。